

その2

パート1：聖書の原則を確立する

第1章：私たちの情報源

「汝の敵を知れ」というのは、戦争の格言としてよく知られています。”古代中国の軍師、孫子は「敵を知り、己を知れば、百戦危うからず」と言っています。 “また、「己を知り、敵を知る」とも言っています。己を知り、敵を知り、千の戦、千の勝なり。” [1]

戦争は知性がなければできません。

戦場の指揮官は、敵の位置、方向、意図を知らなければなりません。

各国は毎年何十億ドルもかけて、既知の敵や潜在的な敵の情報を収集しています。

優れた情報を持つ国は、戦争に勝つ可能性が高くなります。

国家の情報収集能力にハンディキャップを与えることは、効果的な戦争を行う能力にハンディキャップを与えることになります。

私たちは戦争に従事しています。それは、肉と血に対する戦いではなく、主と力と、天の場所にいる霊的な力に対する戦いです（エペソ 6：10－12）。

賭けは高く、戦いは現実的であり、敵は強大です。

実際、敵は私たちよりも強く、賢く、この戦いに勝つことに長けています。

私たちが効果的に戦いに挑むためには、敵に関する情報が必要です。

結局のところ、間違った方法で、間違った手段を使って、間違った戦いをしたくないのです。

それは確実な敗北を意味します。

戦争をしている国は、さまざまな情報源から情報を集めることができます。

衛星写真、偵察機、スパイ、内通者、敵側の裏切り者など、さまざまな情報源があります。

また、リーク、通信傍受、匿名の情報、盗聴、捕らえられた敵の戦闘員などからも貴重な情報を得ることができます。

このように、現代の戦争では、さまざまな手段が駆使されています。

私たちが行う戦いのための情報はどこから得られるのでしょうか。

聖書です。聖書だけです。それだけです。

一つの情報源です。
他にはありません。

私たちが使うように命じられている情報源は一つだけです。

すべての情報は1つのチャンネルから得られます。
他に頼るところはなく、他の情報源はないのです。

もしあなたが今、信じられないという反応をしているのであれば、あなたの聖書に対する見方はあまりにも低すぎるのです。

もしあなたが、「人間、それだけ？と考えると多くの人中にいたら、私は絶望的です。私は絶望的だ。もしそれが私の持っているすべてのものであるならば、私はもうあきらめたほうがいいかもしれない」と考えると多くの人中にいたら、

あなたの聖書とその充足感に対する見方は不足しています。

あなたの答えは、「問題ありません、私に必要なものはそれだけですから。」他に何が必要なのでしょうか？聖書を書いた神は嘘をつくことができない（テトス1：2）ので、神が与えたすべての情報は絶対に真実であると確信できます。さらに、神は天使、悪魔、そして霊的戦いについて、他のどんな情報源よりも詳しく知っておられます。彼は勝利への道を知っています。彼は過去、現在、未来を完璧に知っています。彼は結果を知っており、その結果を保証しています。神は、敵が自分自身を知るよりも敵をよく知っておられます。神はまた、私たち一人一人の弱さ、必要性、そして弱さを知っておられます。私たちには、すべての情報を提供してくれる、唯一の絶対的に完璧で信頼できる情報源があります。神とその御言葉に関する私の主張に疑問を持つ人は少ないでしょう。危険なのは、あなたや私が霊的戦いの分野でこれらの真理を否定することではなく、霊的戦いの分野でこれらの真理を適用するのに失敗することなのです。真の信者は、神の全知全能性やその真実性を疑うことはありません。

しかし、信者は、これらの真理が私たちの霊的戦いの見解にどのように影響を与えるべきかを理解していないのです。

聖書だけで十分ですか？

キリスト教の神学と実践におけるすべての誤りは、不適切な聖書の見方に起因しています。

現代の教会の聖典に対する低い見方は、間違いなく

現代の教会が聖書を無限に低く見ていることは、心理学に手を出したり、説教の場から聖書を排除しようとしたり、聖書以外の啓示を常に追求したり受け入れたりしていることからわかります。

聖書の充足性の教義は、キリスト教の神学と実践にとって非常に基本的なものであり、私たちは何度もこの教義に引き戻されることになります。

霊的戦いの神学を構築する前に、私たちはまず、聖書の充足性をしっかりと理解し、それにコミット

しなければなりません。

この後の章では、靈的戦いの領域における誤った信仰と実践は、聖書だけから神学を導き出すことに失敗したことに端を発していることがわかります。

悲しいことに、クリスチャン生活の中で、現代の靈的戦いの実践を支える神学ほど、この教理がすぐに捨てられてしまう分野はありません。

この後の章では、聖書の基本的な神学に立ち返って、「これは靈的戦いにどのように適用されるのか」と尋ねなければなりません。

“靈的戦いの方法論に関するすべての誤った神学は、聖書の充足性の教義をこのテーマに適用することを怠った結果です。

愚かな実践、悪魔への偏愛、真理を装った異教的な神秘主義はすべて、聖書の充足性を実際に否定した結果なのです。

私たちは、まず、聖書から始めなければなりません。

私たちは、聖書が自分自身について述べていることを思い起こさなければなりません。

十分な真理の源

天使、悪魔、靈的戦いに関して、聖書が唯一信頼できる情報源であると断言するとき、私たちは、聖書が主張していないことを、聖書のために主張しているではありません。

聖書が十分に信頼できるものであることを、私たちはどのようにして知ることができるのでしょうか？

いくつかの重要な聖句を見てみましょう。

2 Timothy 3 : 16 – 17 : “すべての聖書は、神の靈感によるもので、教え、戒め、矯正、義の訓練のために有益です。”使徒パウロは、聖書を「靈感によるもの」と「有益なもの」と表現しました。

パウロは若いテモテに、聖書は「靈感を受けたもの」、つまり文字通り「神の息吹を受けたもの」(θεόπνευστος) であると言いました。

NASBでは「靈感を受けた」と訳されていますが、NIVでは「神の息吹を受けた」と訳されています。

つまり、あなたが手にしている製品は、神の息吹によって与えられたものだということです。

これは、聖書が自ら主張していることです。

聖書が神の息吹を受けているというのは、聖書に神の言葉が含まれているという意味ではありません

(あたかも神の言葉が聖書のどこかにあるかのように)。

私たちが聖書を読んだり、個人的に経験したりするときに、聖書が神の言葉になるという意味ではありません。

むしろ、人がそれを信じ、従い、信頼するかどうかにかかわらず、それは神の言葉なのである。

それは、宇宙の神から客観的に啓示された真理であり、神はその言葉を私たちに与えただけでなく、その言葉を保存し、保護しています。

したがって、私たちは神の啓示の言葉そのものを持っているのです。

聖書は神が吹き込まれたものであるため、生命、永遠、歴史、現実、神、救い、天国、地獄、天使や悪魔の目に見えない世界に関する、誤りのない、無謬の、真の、正確な情報源である。神は嘘をつくことができません (Titus 1:2)。

ですから、聖書は信じられ、信頼され、従うべきものなのです。

聖書は、宗教家が何百年もかけて収集した古風な観察記録の集まりではありません。

聖書は神の言葉であり、聖なるもの、無謬のもの、真実のものなのです。

私たちが霊的領域に関する情報を得るために利用できる多くの情報源の中で、聖書だけが絶対的に誤りのないものであることが保証されています。

パウロが聖書を説明するために使った2つ目の言葉は「有益な」(ὠφέλιμος)です。

この言葉は「役に立つ」という意味です。

聖書は「教え、戒め、矯正、義の訓練」に役立ちます。

神の言葉がこのように使われると、神の人(または女性)は「十分な、あらゆる良い働きのために備えられた」状態になります。

「備える」(ἐξαρτίζωより)という言葉は、「ある人を何かに対して完全に十分な状態にすること、完全に備えること、十分な資格を持たせること、適切さ」を意味しています。

神の御言葉はクリスチャンに装備を与え、人生や働き、そして確かに霊的な戦いにふさわしいものにしてくれます。あなたが霊的な戦いにふさわしい者となるためには、何が必要でしょうか？

戦いに必要なすべての道具を提供してくれるものは何でしょうか？

私たちが必要としているのは、神の息が吹き込まれた聖書だけです。

聖書は、神の人を人生と奉仕のすべての分野で整え、成熟させます。

聖書があれば、必要なものはすべて揃っており、それ以上のものは必要ないのです。

私たちは、その真理を魂の奥深くに刻み込まなければなりません。

霊的戦いに関する無数の教えは、敵と戦うための戦術についての情報を他に求めるように指示しています。

地上の国家間の戦争では、情報を信頼するためには、常に吟味、分析、検証しなければなりません。

情報を収集する者は、写真が偽造されていないか、情報は正当なものか、情報源は信頼できるものかを常に問わなければなりません。

私たちは、情報源を一瞬たりとも疑う必要はありません。

なぜなら、それは真実の神の言葉そのものだからです。

パウロと同様に、ペテロも、神から与えられた十分な真理の啓示として、聖書を読者に示しました。

第二ペテロ 1:3-4: “主の神の力が、ご自身の栄光と卓越性によって私たちをお召しになった方を正しく知ることによって、命と神性にかかわるすべてのものを私たちに与えてくださったことを知っています。

それは、神の神通力が、ご自身の栄光と卓越性によって私たちをお召しになった方を正しく知ることによって、命と神性にかかわるすべてのものを私たちに与えてくださったからです。

神は、命と神性にかかわるすべてのものを、私たちに与えてくださいました。私たちに必要なものはすべてキリストの中に与えられています。

私たちは、私たちを呼んでくださった方について真の知識を得て、救われ、神の性質にあずかる者となり、欲望による世の腐敗から逃れることができました。神は、その栄光と卓越性によって、生命と神性に必要なすべてのものを私たちに与えてくださいました。

これは、クリスチャンの生活における聖書の完全な充足性についての記述です。

私たちは、神の召しによって救いを与えられました。

クリスチャン生活を送るために必要なものはすべて与えられています。

この完全な充足感、神の貴重で壮大な約束、すなわち神の言葉の中にあります。

神が私たちに約束したすべてのことは、神の御言葉の中にあります。

キリストにある救いとキリストの御言葉の間に、私たちは完全に満たされているのです。

他に何が必要でしょうか？

神の御言葉の豊かな祝福、私たちに与えられた救い、そして私たちが神の御言葉によって満たされているという事実を考えると、私たちは神の御言葉を信じています。

私たちは、内在する聖霊によって神の性質を持つ者として、「ああ、それはいいことだけど、それだけでは足りない。もっと必要だよ。」

それは神の恵みに対する侮辱です。

それは、神の恵みと神の言葉への侮辱です。

聖書は私たちに必要なすべてです 私たちの霊的な戦いにおける知性の源として聖書が十分であると断言することは、聖書が知りうるすべてのことを含んでいると言っているではありません。

神は、ご自身や神の意志、天国や地獄、天使や悪魔について、知るべきことをすべて明らかにしたわけではありません。

しかし、神は私たちが知る必要のあること、そして神が私たちに知ってほしいと願っていることをすべて明らかにされました。

神は、これらの領域（霊的領域）で起こっていることをすべて話しているわけではありませんが、私たちが自分自身を守り、任務を成功させるために必要なことをすべて話しています。

聖書以外の情報に頼るようになると、知らず知らずのうちに限界を超えてしまい、自分自身を危険にさらすことになりかねません。

聖書は、すべての真理の唯一の源であるとは主張していませんし、これらのテーマについて知りうるすべてのことを明らかにしているわけでもありません。

聖書は、真実で正確な情報を提供すると主張しており、人生のあらゆる状況に必要なすべての情報を提供すると主張しています。この本を読んだ人の中で、聖書の不変性や無謬性を否定する人はいないでしょう。

読者の多くは、私がこれまでに述べてきた聖典に関するすべてのことを容易に肯定すると思います。

あなたはおそらく、聖書を高く評価していることでしょう。

霊的戦いの領域で私たちが直面する危険は、聖書の権威と信頼性を完全に否定することではなく、その信念を適用することができないことです。

アイスとディーンが書いているように、...聖書の不変性と無謬性を肯定している人の中でも、多くのクリスチャンは、日常生活に聖書を適用する（または適用しない）方法で、聖書の権威を否定しています。

多くのクリスチャンは、聖書以外の見解に基づいて行われているある種の慣習を見ると、聖書をすべての良い働きのために十分であるとは考えていないようです。

これは、特に霊的戦いの分野で顕著です。

私たちは、常に聖書に立ち返り、聖書だけに基づいて考え、実践しなければなりません。

一般的に信じられている慣習や信念に聖書を用いて挑戦し、すべてのものを神の言葉に照らし合わせる必要があります。

私たちは、悪魔、悪魔憑き、悪魔祓い、霊的戦いについての神学を、聖書のみに基づいて構築するように努めなければなりません。

悪い方法 クリスチャンが霊的戦いの神学を構築する際、一般的に2つのアプローチがあります。

第一の方法は、「経験的方法」と呼ぶことができます。

“この方法は、現代では最も普及しています。

経験的な方法とは、悪魔や悪魔憑き、そして悪魔との戦い方について、できるだけ多くの情報を得ようとするものです。

悪魔に取り憑かれたことのある人や、オカルトの世界に身を置いたことのある人にインタビューを行います。

体験談は照合され、詳細に調べられます。

元悪魔崇拝者や魔女、あるいは悪魔とのインタビューなどから得た情報をもとに、神学や宗教を構築している人も珍しくありません。

経験的方法は、観察や経験からデータを収集します。

第二の方法は、啓示に基づいて理解することです。

私たちは、聖書を研究し、聖書だけを研究します。

簡単すぎるでしょうか？

この方法は、不十分で、時代遅れで、陳腐だと思われませんか？

私はこの方法を支持します。

第一の方法を採用し、経験に基づいて神学を構築すると、必然的に愚かな神学や非聖書的な実践が尽きることはありません。

例えば、悪魔に対処するには、特定の命令を与える必要があると主張する人を聞いたことがあります。

どんな命令でもいいというわけではなく、「神の子、イエス・キリストの名において」命令しなければならぬのです。

“彼らは、「イエス」という名前の悪魔がいると主張しています。

ですから、イエスの名前で悪魔に命令しても意味がありません。

もし、どのイエスカを特定しなければ、イエスという名前の悪魔の名前を呼んでいるだけだからです。

聖書には、イエスという名前の悪魔がいると書かれていますか？

では、どうやってイエスという名前の悪魔がいることを知ったのでしょうか？

霊的戦いの分野で「権威」のある人たちは、イエスという名の悪魔を祓ったことがあると言うでしょう。

彼らはイエスという名の悪魔と話したことがあります。

これは、悪魔たちから得た情報です。

それは信頼できる情報ですか？

ほとんどありません。

それは、悪魔から得られた情報と経験に基づいた神学と実践なのです。

しかし、悪魔祓いを行った人は、悪魔に『神の子イエス・キリストの名のもとに、その血の力によって』真実を語るように命じたのではないかと反論する人がいます。

しかし、悪魔祓いをした人は、『神の子イエス・キリストの名とその血の力によって』真実を語るように悪魔に命じたのです。

聖書はこのように言っていますか？

いいえ。

繰り返しますが、彼らはどうやって知ったのでしょうか？

彼らは悪魔に言われたのです……悪魔に真実を語らせる方法です。

もう一度言いますが、彼らは経験と悪魔の証言に基づいて実践しているのです。

これらの概念は、聖書には全く基づいていません。

笑ってしまうような話ですが、クリスチャンはそれを鵜呑みにしています。

霊的戦いをテーマにした本は何百冊も出ています。

これらの著者は、あるページでは聖書の権威と充足感を肯定し、次のページでは、聖書の一節ではなく、自分の経験、インタビュー、悪魔との遭遇に基づいた霊的戦いの方法論を推進しています。

悪魔から得た技術や情報を、神の真理であるかのように教えることは、最高の冒瀆です。

それは、神の名誉を傷つけ、神の言葉を汚し、神の人格を傷つけるものです。

これらは、悪魔の教義（1テモテ4：1）を神の真理であるかのように教えているのです。

悪魔の証言を、神の言葉と同じように純粋で、信頼でき、真実であるかのように扱うことは、純粋で単純な神への冒瀆です。

悪魔に取り憑かれた人々への対処法を、神の言葉の明確な教え以外に基づいて行くと、必ず失敗する運命にあります。

実際、聖書から直接得られていない情報に基づいてアプローチすることは、実際には聖書の権威と充足感を否定することになります。13]

霊的戦いの分野では、私たちの神学を聖書と聖書だけに基づいて構築することが絶対に重要です。

できるだけ明確に、簡潔に、率直に、そして親切に説明します。

私は、あなたが何を経験したかは気にしません。

あなたの知り合いが何を経験したかは気にしません。

あなたのいとこのお母さんの親友のおじさんの宣教師のお兄さんが、アマゾンのジャングルのどこか遠くの辺境の部族で経験したことなど、私は気にしません。

霊的戦いの専門家が何を言おうと、経験が何を示唆しようと、悪魔が何を言おうと、元悪魔崇拝者が何を知らうと、私は気にしません。

あなたもそうするべきではありません。

私たちには、戦いに必要なすべてを提供する完璧な真理の源があります。

すべては聖書と聖書だけに基づいています。この先のページで、あなたはどれほどのものかを知ることになるでしょう。

この最初の原則から離れてしまった人もいます。

神が私たちが神の言葉の中にとどめてくださいますように。